

## 2025年3月期第1四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2025年3月期第1四半期決算説明資料

[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=bPDL4tNPTok%3d&tabid=144&mid=1060)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=bPDL4tNPTok%3d&tabid=144&mid=1060](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=bPDL4tNPTok%3d&tabid=144&mid=1060)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード (High Density Interconnect)

### ■ご説明



### 2024年度第1四半期決算



- ・第1四半期前年同期比では、MicroThin™など機能材料セグメントの主要製品の販売量増加や為替の円安、金属価格が上回って推移したことおよびそれに伴う在庫要因の好転等により増収増益となった
- ・通期予想は、モビリティセグメントの排ガス浄化触媒の販売量増加や為替の円安、金属価格が想定を上回って推移することおよびそれに伴う在庫要因の好転、特別利益である投資有価証券売却益の計上に加えて、下期以降の銅箔の値上げ等を織り込み、前回予想比で増収増益を見込む

(単位: 億円)	第1四半期実績			通期予想		
	2024 実績	2023 実績	増減 (24-23)	2024 今回予想	2024 前回予想	増減 (今回-前回)
売上高	1,699	1,475	224 15.2%	6,850	6,400	450 7.0%
営業利益	235	-55	289 -	470	350	120 34.3%
経常利益	262	51	211 415.1%	480	350	130 37.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	221	25	196 769.1%	430	220	210 95.5%

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



1

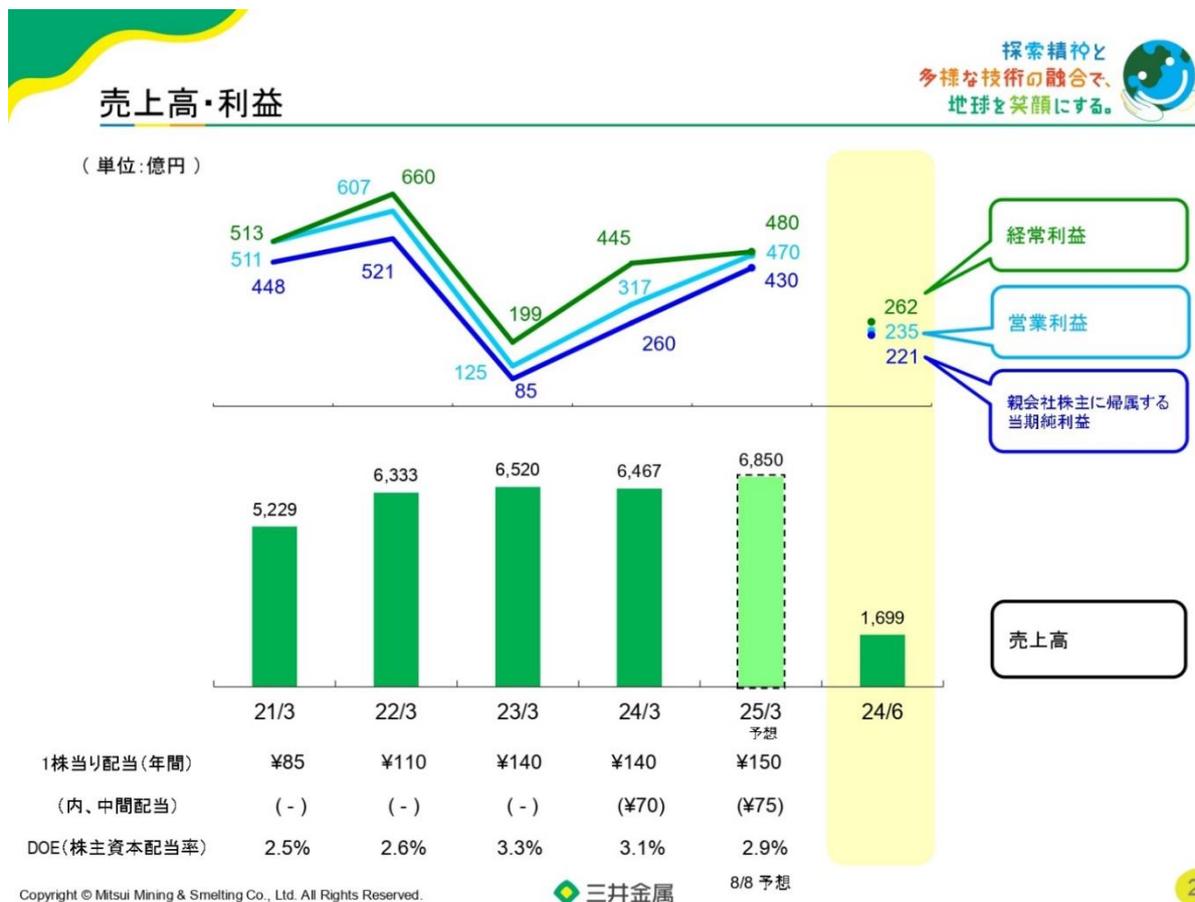
決算説明資料1ページ目をご覧ください。

・2025年3月期第1四半期の売上高は1,699億円、営業利益は235億円、経常利益は262億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は221億円となりました。前期との比較では、MicroThin™など機能材料セグメントの主要製品の販売量増加、円安、金属価格の上昇などにより、売上高は224億円の増収となりました。利益につきましては増収による影響に加え、円安や金属価格の上昇に伴う在庫要因の好転などにより、営業利益はプラス289億円、経常利益はプラス211億円、親会社株主に帰属する四半期純利益はプラス196億円と大幅に増加いたしました。

・2025年3月期の連結業績予想につきましては、本日、業績予想および配当予想の修正に関するお知らせにて開示いたしました通り、第1四半期の実績に第2四半期以降の事業環境などを見直した結果、売上高6,850億円、営業利益470億円、経常利益480億円、当期純利益430億円と、前回5月13日に開示しました業績予想を上回る見込みでございます。

・なお、第2四半期以降の価格前提につきましては、前回5月13日公表時と同様、LME亜鉛価格2,700ドル、鉛価格2,100ドル、銅価格400セント、為替は145円を見ております。16ページに

Appendixとしてつけておりますのでご参照ください。



決算説明資料2ページ目をご覧ください。

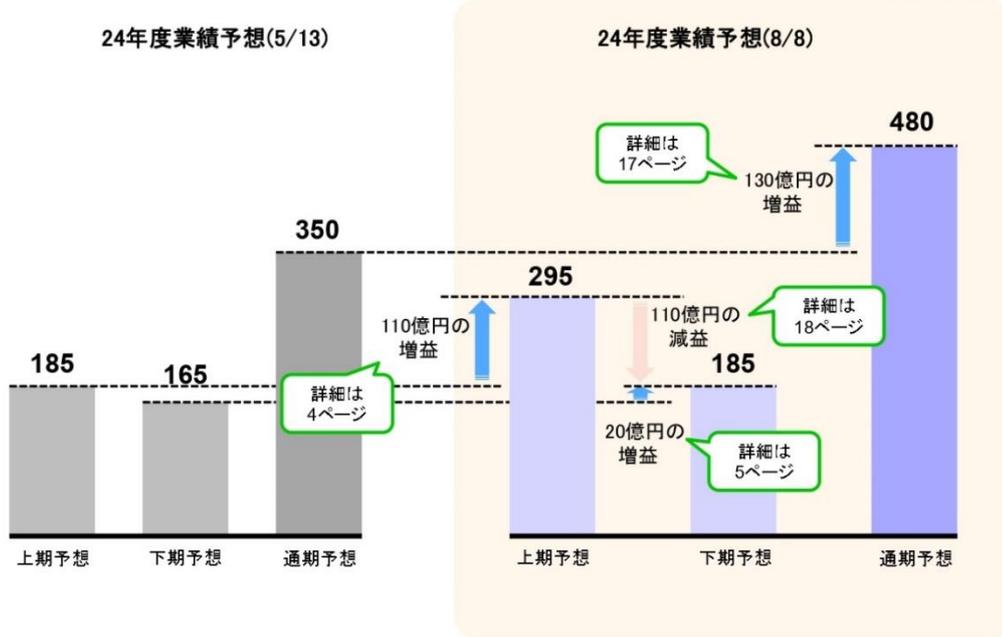
・棒グラフの下に記載しておりますが、配当につきましては、本日業績予想および配当予想の修正に関するお知らせにて開示しました通り、期末配当予想を70円から5円増額して75円とし、中間配当予想75円と合わせて、年間配当予想は150円を予定しております。



## 24年度経常利益見込

24年度経常利益は、上期は前回業績予想比で110億円の増益を見込む  
通期は前回業績予想比で130億円の増益を見込む

(単位: 億円)



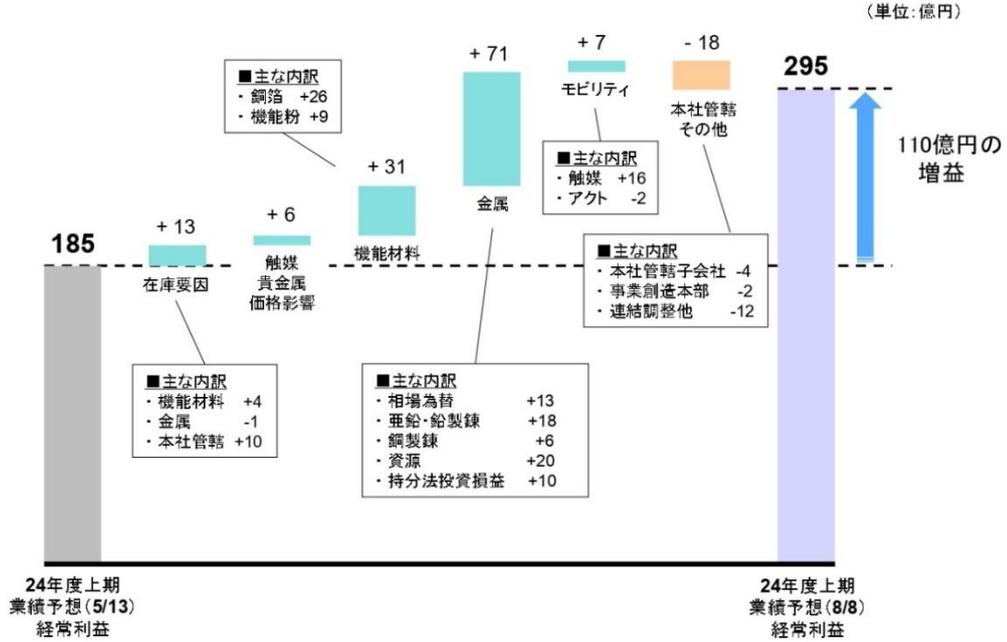
続きまして資料3ページをご覧ください。

・2024年度の通期経常利益につきまして、上期は前回比で110億円増益の295億円、下期は20億円増益の185億円、通期では130億円増益の480億円を見込んでおります。



## 24年度上期経常利益見込(対前回業績予想)

24年度上期経常利益は前回業績予想比で110億円の増益を見込む



まずは上期経常利益の前回業績予想との差異についてご説明いたします。資料4ページをご覧ください。

・経常利益では前回見込みの185億円から110億円の増益を見込んでおりますが、機能材料、金属、モビリティの各セグメントの実力損益ベースの合計109億円の増益を見込んでございます。

各セグメントの増益要因についてご説明いたします。

・増益幅の一番大きい金属セグメントでは、第1四半期にて、金属価格や為替の円安が想定を上回って推移したことや、原料代・加工費などが減少したことにより71億円の増益。

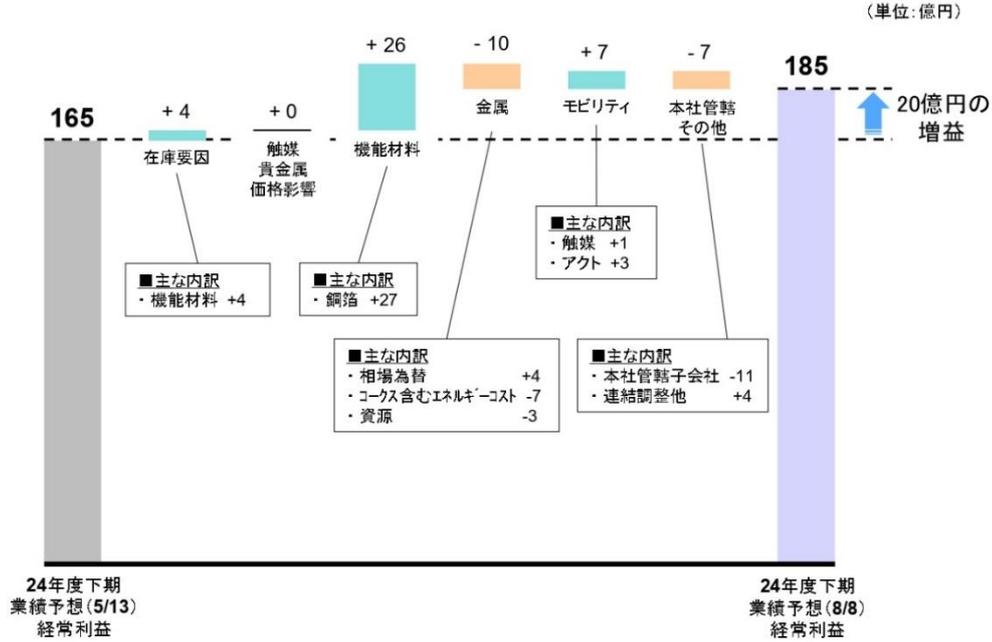
・機能材料セグメントでは、銅箔事業の固定費・販売費の減少など、機能性粉体事業では、各製品の販売量増加などにより31億円の増益。

・モビリティセグメントでは、二輪用排ガス浄化触媒の販売量増加などにより、7億円の増益を見込んでございます。



## 24年度下期経常利益見込(対前回業績予想)

24年度下期経常利益は前回業績予想比で20億円の増益を見込む



続きまして、下期経常利益の前回業績予想との差異についてご説明いたします。資料5ページをご覧ください。

・経常利益では20億円の増益を見込んでおります。前提となる諸元は亜鉛価格2,700ドル、為替145円と、前回予想と同様であることから、主な要因は機能材料セグメントの銅箔事業における好転となります。具体的には、下期に電解銅箔およびMicroThin™の値上げなどを織り込んだことが主な要因となっております。

## 損益計算書



(単位: 億円)	第1四半期			上期			通期		
	2024 実績	2023 実績	増減 (24-23)	2024 今回予想	2023 実績	増減 (24-23)	2024 今回予想	2023 実績	増減 (24-23)
売上高	1,699	1,475	224 15.2%	3,450	3,121	329 10.5%	6,850	6,467	383 5.9%
売上原価	1,281	1,371	-91 -6.6%	-	-	-	-	-	-
売上総利益	418	104	314 303.0%	-	-	-	-	-	-
販売費・管理費	183	158	25 15.7%	-	-	-	-	-	-
営業利益	235	-55	289 -	280	47	233 501.0%	470	317	153 48.3%
営業外収支	27	105	-78 -	15	122	-107 74.7%	10	128	-118 -
経常利益	262	51	211 415.1%	295	169	126 74.7%	480	445	35 7.8%
特別損益	16	-14	30 -	98	-55	153 245.1%	76	-60	136 44.2%
税引前利益	278	37	241 659.6%	393	114	279 245.1%	556	385	170 44.2%
税金費用・非支配株主帰属損益	57	11	46 -	83	32	51 -	126	126	0 -
親会社株主に帰属する 当期純利益	221	25	196 769.1%	310	81	229 280.7%	430	260	170 65.5%

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



6

その他の項目についてご説明いたします。まず6ページの損益計算書をご覧ください。

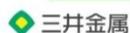
・2024年度の業績について第1四半期上期、通期いずれも対前年度に対して、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに上回る見込みでございます。2024年度は特徴としては特別損益として上期に98億円、通期に76億円を計上する予定でございます。

## 営業外・特別損益



(単位: 億円)	第1四半期			上期			通期		
	2024 実績	2023 実績	増減 (24-23)	2024 今回予想	2023 実績	増減 (24-23)	2024 今回予想	2023 実績	増減 (24-23)
金利収支	-6	-6	0	-11	-11	0	-23	-22	-2
受取配当金	5	72	-67	5	72	-68	6	74	-68
持分法投資損益	15	11	4	22	20	2	30	32	-3
為替差損益	12	27	-15	1	31	-31	1	30	-29
その他	1	1	0	-1	11	-12	-3	14	-17
営業外損益 計	27	105	-78	15	122	-107	10	128	-118
固定資産除売却	-3	-8	4	-10	-12	3	-28	-23	-5
有価証券売却損益	1	0	1	93	0	93	93	13	81
関係会社株式売却損益	20	0	20	20	0	20	20	0	20
関係会社株式評価損	0	0	0	0	-10	10	0	-10	10
債務保証損失引当金繰入額	0	0	0	0	-25	25	0	0	0
貸倒引当金繰入額	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-26	24
その他	0	-6	7	-4	-8	4	-7	-13	6
特別損益 計	16	-14	30	98	-55	153	76	-60	136

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



9

特別損益の内訳として、9ページをご覧ください。

•こちらの下のほうが特別損益の内訳になっておりまして、このうち、有価証券の売却損益93億円のうち92億円が本日開示しました当期有価証券売却益、特別利益の計上に関するお知らせの通り、政策保有株式の売却益となっております。

•さらにその下の関係会社株式売却損益20億円を計上しておりまして、こちらは当社の一部の連結子会社の株式譲渡によるものです。当社は資産効率化を志向しておりまして、これら一連の株式売却はその一環でございます。今後も成長分野への経営資源投入や有利子負債の削減による財務体質の改善など、現在の中期経営計画「22中計」の取り組みを着実に実行してまいります。



## セグメントの業績(1) 機能材料

(単位: 億円)

	24/Q1 実績	23/Q1 実績	増減 (24-23)	上2024 今回予想	上2023 実績	増減 (24-23)	FY2024 今回予想	FY2023 実績	増減 (24-23)
■売上高	380	287	93	750	597	153	1,520	1,241	279
■営業利益	69	27	42	125	65	60	250	154	96
■経常利益	74	32	41	120	74	46	245	164	81
※実力損益	66	28	37	107	65	42	228	148	80

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド車向けニッケル水素電池</li> <li>・リチウムイオン電池</li> </ul>
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種電子部品</li> <li>・ガラス研磨材</li> </ul>
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高密度半導体パッケージ材料</li> <li>・プリント配線基板</li> </ul>
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラットパネルディスプレイ</li> </ul>
セラミックス	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温用窯道具、電子部品用窯道具</li> <li>・溶融アルミニウム濾過装置</li> </ul>
レアアース化合物 (日本イットリウム)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体製造装置向け保護材</li> <li>・電材用添加剤</li> </ul>

### 経常利益の増減説明

[ 上2023→上2024予想 +46 ]

銅箔 +45 (電解銅箔・MicroThin™増販、  
営業外為替差益剥落 他)  
機能粉 +9 (主要製品増販 他)

[ FY2023→FY2024予想 +81 ]

銅箔 +73 (電解銅箔・MicroThin™増販、  
営業外為替差益剥落 他)  
機能粉 +13 (主要製品増販 他)

それではセグメントごとの状況についてご説明いたします。最初に機能材料セグメント、資料の12ページをご覧ください。

・機能材料セグメントについて、24年度に入りまして、23年度より回復基調ではありますが、24年の上期から下期にかけて本格的な回復を見込んでいる製品は、MicroThin™など一部にとどまりまして、上期から下期にかけての各製品の販売量は、回復基調は継続ですが微増や横ばい、中にはちょっと減少する製品も存在するなど、事業別・製品別で濃淡があるというのが全体感でございます。

・そのような状況のもと、24年度の経常利益は上期で120億円、通期で245億円を見込んでおり、いずれも対前年比で大幅に上回っております。主な要因としましては、こちらの右下に記載はありますが、銅箔事業の主力製品の電解銅箔やMicroThin™、機能性粉体事業の各種製品の販売量増加等となっております。

## セグメントの業績(2) 金属

(単位: 億円)

	24/Q1 実績	23/Q1 実績	増減 (24-23)	上2024 今回予想	上2023 実績	増減 (24-23)	FY2024 今回予想	FY2023 実績	増減 (24-23)
■売上高	655	524	131	1,380	1,147	233	2,700	2,468	232
■営業利益	178	-61	240	170	-19	189	200	64	136
■経常利益	194	16	178	185	73	112	215	161	54
※実力損益	121	70	51	150	96	54	180	157	23

※実力損益: 経常利益から在庫要因を除いたもの

### 経常利益増減分析

	上2023→ 上2024予想	FY2023→ FY2024予想
相場・為替	35	47
T/C条件(亜鉛)	-23	-34
たな卸資産在庫要因	58	31
持分法損益	-1	-2
エネルギーコスト (上記のうち、コークス)	31 (-4)	26 (0)
受取配当金	-66	-68
その他※	78	54
合計	112	54

### 2024年度年間損益感応度(経常損益)

(単位: 億円)

		フルオープン	予約含む
亜鉛(LME)	±100\$/t	15.4	14.2
鉛(LME)	±100\$/t	3.7	3.7
為替	±1yen/\$	5.2	4.3

### 亜鉛TC条件

FY2023	274 \$/t	・ 3,000\$/t以上で +6%
FY2024	165 \$/t	

### ※その他の主な内訳

上2023→ 上2024予想	亜鉛製錬操業好転 +14、亜鉛・鉛固定費(大定修+15含む) +10、銅製錬操業好転 +20、資源 +20
FY2023→ FY2024予想	亜鉛製錬操業好転 +13、鉛等操業好転 +5、亜鉛・鉛固定費(大定修+15含む) +1、銅製錬操業好転 +19、銅製錬コスト(大定修-24含む) -17、資源 +17

次に金属セグメントです。資料13ページをご覧ください。

・24年度の第1四半期について経常利益は194億円を計上しております。第1四半期は亜鉛価格がいったん3,000ドルを超える水準まで上昇し、為替は160円を超える円安が進行するなど、当社にとって非常に有利な外的環境であったと言えます。さらに在庫要因の好転、一部ではありますが、昨年の安い有利なT/C条件の鉱石受け入れがあったことや、昨年のヘッジ精算金が今年度の第1四半期に計上されたこと、あとは電力を中心に、エネルギーコストも前年比で改善したことなどの要因があり、第1四半期の金属セグメントの業績はさまざまな好条件が重なった、ちょっと出来すぎた結果であるという認識をしております。

・第2四半期以降、価格前提は亜鉛価格を2,700ドル、為替を145円で見えておりまして、下期に銅製錬の大定修を予定していることから、24年の経常利益は上期で185億円、通期で215億円を見込んでおります。

・経常利益について、対前年度比の増減分析を載せておりますが、前年度の一過性の受取配当金66億円の剥落や、T/Cの悪化などを、市価の相場、為替の好転およびそれに伴う在庫要因の好転、エネルギーコストの減少およびその他の要因でカバーして、対前年度比で上回る見込みでございます。

## セグメントの業績(3) モビリティ

(単位: 億円)

	24/Q1 実績	23/Q1 実績	増減 (24-23)	上2024 今回予想	上2023 実績	増減 (24-23)	FY2024 今回予想	FY2023 実績	増減 (24-23)
■売上高	502	554	-51	1,020	1,127	-107	2,000	2,184	-184
(内、三井金属アクト)	(232)	(232)	(-0)	(481)	(484)	(-3)	(975)	(976)	(-2)
■営業利益	33	-2	35	58	28	30	120	102	18
(内、三井金属アクト)	(-4)	(-0)	(-4)	(-4)	(4)	(-8)	(12)	(7)	(5)
■経常利益	35	9	25	53	38	15	110	113	-3
(内、三井金属アクト)	(-5)	(3)	(-8)	(-4)	(6)	(-10)	(12)	(11)	(1)
※実力損益	30	42	-13	47	76	-29	104	141	-37

※実力損益：経常利益から触媒貴金属価格影響を除いたもの

### 経常利益の増減説明

(モビリティ事業本部)	(主な製品)
触媒	・二輪車・四輪車 排ガス浄化触媒
三井金属アクト	・自動車用ドアロック
三井金属 ダイカスト	・ダイカスト製品

[ 上2023→上2024予想 +15 ] [ FY2023→FY2024予想 -3 ]  
 触媒 +32(販売構成悪化、貴金属価格影響好転他) 触媒 +0(販売数量減、貴金属価格影響好転他)  
 アクト -10(販売構成悪化、コスト改善他) アクト +1(販売構成悪化、コスト改善他)

### アクト増減分析

	上2023→ 上2024予想	FY2023→ FY2024予想	※その他の主な内訳	上2023→ 上2024予想	FY2023→ FY2024予想
増減販	-14	-19	鋼材等材料価格上昇	-1	-2
コスト削減	12	38	為替差	-4	-6
その他※	-8	-18	退職給付債務	0	-8
合計	-10	1	輸送費好転	-2	-4

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

◆ 三井金属

14

最後にモビリティセグメントです。資料14ページをご覧ください。

・排ガス浄化触媒について、二輪向けは24年度上期は昨年以降の好調継続を見込んでおりますが、24年度下期では、インドの季節的要因もあって、上期比で減販を見込んでおり、今年度通期では対前年並みの数量を見込んでおります。一方、四輪向けの触媒については、中国での日系カーメーカーの販売苦戦などもあり、対前年比で減販を見込んでおります。

・もう一つの主要製品のドアロックについては、昨年から半導体不足の影響の緩和で、自動車市場全体は回復基調ではありますが、四輪向け触媒同様、中国での日系メーカーの販売苦戦、さらに日系メーカーの認証不正問題等もあって売上は伸び悩み、昨年並みを見込んでおります。

・モビリティセグメント全体の売上について、ドアロックは昨年並みですが、触媒は金属価格の下落により減収となることから、モビリティセグメント全体の売上高は上期1,020億円、通期2,000億円と、対前年度比で減収を見込んでおります。

・モビリティセグメント全体の経常利益について、上期は53億円と対前年比で15億円の好転、通期は110億円と前年比で3億円の微減と、見た目上の損益は前年度と遜色ない数値となっております。ただ、金属価格影響を除いた実力損益ベースでは、24年度の上期は47億円と対前年比で29億円の減益、通期では104億円と対前年比37億円の減益となっておりますが、主な要因としては四輪向けの触媒の販売量減少によるものと認識しております。

## ■質疑応答

### 【機能材料セグメント】

- Q. 対前回予想比での銅箔の損益について、販売数量は電解銅箔、MicroThin™ともにあまり変わらないが、上期は固定費などで利益が好転し、下期は値上げという説明があった。ここの補足をいただきたい。
- A. 上期は対前回予想比でプラス 26 億円で、販売要因以外での好転が大きくなっている。特に第 1 四半期で為替が円安で推移したことでのマージンの好転があり、日本だけではなく台湾、マレーシアでも好転している。また、固定費・販管費が前回予想でかなり増えると見込んでいたが今回予想ではそこまで増えず、原価計算差も好転となることの影響している。下期のプラス 27 億円は値上げによる効果が含まれ、規模感は大体 10 億円から 15 億円の間ぐらいである。それ以外は、固定費や為替の影響などの好転要因を積み上げており、下期でも販売数量の増加による影響は大きくない。固定費は足元第 1 四半期まで終わったところで、労務費や償却費、開発費の発生が前回見たところまでは出ていないため、その好転がある程度通期でも残ると見込んでいる。また、為替の影響は、第 1 四半期の好転と、第 2 四半期以降では海外拠点での現地通貨安による好転を見込んでいる。
- Q. 銅箔の損益の好転は第 1 四半期で出たものを織り込んでいるということだが、下期でも値上げ以外のファクターで上方修正をされており、何か補足があれば教えていただきたい。
- A. 下期の固定費・販管費の好転は上期ほど大きくなく、海外拠点での為替差の好転が出ている。
- Q. MicroThin™の HDI 向けで、第 1 四半期の着地が前回上期予想から 10%以上数量的に増えており、着地の上振れと上期の上方修正の背景はどうか。また、新しい北米系スマホでの使用層数や、北米系スマホ以外での採用機種の広がりがあれば教えていただきたい。
- A. MicroThin™の HDI 向けは、北米系スマホの新モデルの作り込みが第 1 四半期から始まり、第 2 四半期でピークを迎えて第 3 四半期以降落ち着くという従来通りの動きをしている。北米系スマホが想定以上に販売好調であったため、上期にはかなり増加を見込んでいる。使用層数は特に大きな変化はないと考えている。また、北米系スマホ以外での採用機種の開拓は、引き続き取り組んでいるが実際に追加で採用に至ったという話はない。
- Q. MicroThin™の PKG 向けについて、説明資料 P.10 の指数で第 2 四半期の 69 から下期が 78 と結構増える印象があり、例えばスマホが戻る、あるいはメモリ系が増えるなど、どういう背景か教えてください。
- A. MicroThin™の PKG 向けの指数は、第 1 四半期は前回見通しより僅かに下がっているが、今回下期見通しは本格回復の時期が今年度下期からということも踏まえて、前回同様の水準で販売量が増えてくるという見方をしている。下期に向けては従来同様に非スマホ向けメモリ用途での販売数量の伸びが牽引すると見ている。
- Q. MicroThin™の収益改善の取組みで、固定費増などによるマージンの悪化に対して今回の値上げは何を転嫁することでの改善になるか。また、下期から値上げが定着すると来期以降の増益要因として期待できるものなのか。
- A. 銅箔の値上げは収益性の改善が目的となる。特に労務費を始めとした固定費関係、またエネルギーコストも以前と比べると高くなっている。収益改善を目的に、今回 MicroThin™と電解銅箔の値上げを実施しており、効果が下期から出てくると見ている。今のところ半期で 10 億から 15 億円ぐらいを見込んでいるが、これは来年も引き続き好転要因として期待できると考えている。
- Q. 電解銅箔で、現状の認識としてフレキ向けと通信インフラ向けをどう見ているか解説いただきたい。
- A. 電解銅箔は、フレキ向けでは中華系スマホなどの需要が好調に推移したことから販売数量は着実に前期から増え、前回予想比でも上回っている。通信インフラ向けは、ロー、ミドルレンジのサーバー用途等の需要は旺盛で販売数量は前期から増えているが、前回予想には届いていない。
- Q. 電解銅箔の高採算品である、生成 AI 向けの VSP™の販売数量はどうか。また、収益への貢献はあるか。
- A. 生成 AI 向けのハイグレード VSP™について、四半期ごとで増減はあるが 23 年度実績と 24 年度通期見込の YoY での比較で言うと、大体 4 割増ぐらいで、前回予想よりも強いという見方をしている。収益への貢献はもちろんあるが、22 年度から 23 年度の影響額に比べると少し小さくなる。

- Q. 電解銅箔の販売数量は前回予想からあまり変化はないが、外部環境の変化としては色々なサーバー関連の最新のニュースも出てきており、それらを踏まえると従来の見方通りトップラインは高い伸び率を示し来期の増益要因として期待できるか。
- A. 電解銅箔のハイグレード VSP™は非常に足元需要が旺盛であるが、一部サーバーの設計変更などの話もあって当社の銅箔の使用量が読み切れない部分もあるため、24 年度下期ではハイグレード VSP™は前回予想より強く見ているが、ハイグレード VSP™含む VSP™トータルでの販売量は前回見通しと同水準としている。ただこちらについては、足元の旺盛な需要を考慮すると保守的な数字ではないかという見方もあり、今後、市場の伸びに期待している。

- Q. 機能性粉体事業について、説明資料 P.24 では売上高が伸びているが、機能材料セグメントの説明で事業別・製品別に濃淡があるというコメントもあり、補足をいただきたい。
- A. 機能性粉体事業の主力製品である MLCC 向けの銅粉の販売数量は、それほど強くは伸びていない。一方で酸化タンタルやガラス研磨用の研磨材は販売量が 23Q4 比で増加している。

#### 【金属セグメント】

- Q. 金属事業の利益変動が激しく、上期に対し下期は利益が落ちる見方となっているが、金属市況や為替が横ばいだったときの実力損益はどの期をベースとして考えればよいか。
- A. 今回業績予想の前提条件である亜鉛価格 2,700 ドル、為替 145 円で推移したとして、下期をベースとして考えると、今回織り込んでいる一過性要因である銅製錬大定修の約 25 億円、操業の影響を考慮すると約 30~40 億円を下期金属事業の損益 30 億円に足し戻すと実力損益となる。よって通期の実力損益はおよそ 120~140 億円となる。

#### 【モビリティセグメント】

- Q. 二輪触媒の販売量について、通期予想の指数をかなり増やしている。前回決算での今期予想ではインドの競争激化でシェアを取られるリスクが織り込まれていたが、今回決算ではどう見ているか教えていただきたい。また、競争激化の背景を教えていただきたい。
- A. 二輪触媒のインドでの販売数量は、まずインド景気が昨年好調から今年は少し落ちると見ていたが、実際には好調を継続していることから数量を増やして見ている。競合との競争激化は、第 1 四半期ではシェアを取られておらず、前回予想でも第 1 四半期はまだ維持できるという見方をしていた。ただ、競合にシェアを取られるような動きがある程度見えてきており、下期には前回予想通り競争激化の影響が実現するのではないかと見ている。競争激化は、実際に今年度あたりから、インドの特定のお客様でローカルの触媒メーカーが当社と競合しシェアを奪いに来ている。

#### 【全社または複数セグメント】

- Q. 主要セグメントで第 1 四半期の利益がかなり出ているのに対して、第 2 四半期で実力損益が大きく減ってしまう計画になっている。説明資料の P.19 に記載があるが、機能材料と金属とモビリティで、それぞれ主要な利益変動要因を教えていただきたい。
- A. 説明資料の P.19 の主な内訳について、銅箔のマイナス 11 億円のうち一番影響が大きいのは営業外の為替差損益で 8 億円の悪化となっている。あと固定費・販管費は、第 1 四半期の実績が小さいところが第 2 四半期で少し増えるの見込んでいる。亜鉛・鉛製錬のマイナス 46 億円は、亜鉛・鉛の原料での構成差や、前年度の TC 条件のものが一部あったことなど、第 1 四半期に良すぎた部分が第 2 四半期に剥落する影響が大部分を占めている。銅製錬のマイナス 11 億円は、実収差量などの操業度の部分で第 2 四半期に若干悪くなると見込んでいる。触媒のマイナス 19 億円は、販売要因での減益は大きくなく、営業外の為替差損益の悪化が 9 億円と、それ以外にコスト関係で第 2 四半期に多めに出るような見方をしている。
- Q. 第 1 四半期が実力利益なのか第 2 四半期が実力利益なのかで全体的な印象はかなり変わってくるが、御社としてはどういう整理をしているか。第 2 四半期で費用が増えるのはコンサバに見えている印象もあり、一方で為替の差損益がなくなる第 2 四半期が実力と考えるべきなのか、教えていただきたい。
- A. 第 2 四半期は、第 1 四半期で良かった要因が逆で出ているところがいくつかあるため、実力ベースでは上期トータルで見るほうが実力的には近いのではないかと認識している。

以上